

教区だより

2017

3月

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

第340号



3

特集

「同和協議会現地学習会」

きょうく 恐懼に堪えざることに抗して—天皇制による^{ほら}洞部落強制移転—

4

ざっぼう
雑宝



～私を歩ませた言葉～

【筆者】出雲組 正藏坊 副住職
たが せいしゅう 氏
多賀 静秀 氏

5

連載

大乘仏教—釈尊観の^{しんか}深化—

《第11回》仏説としての大乗経典

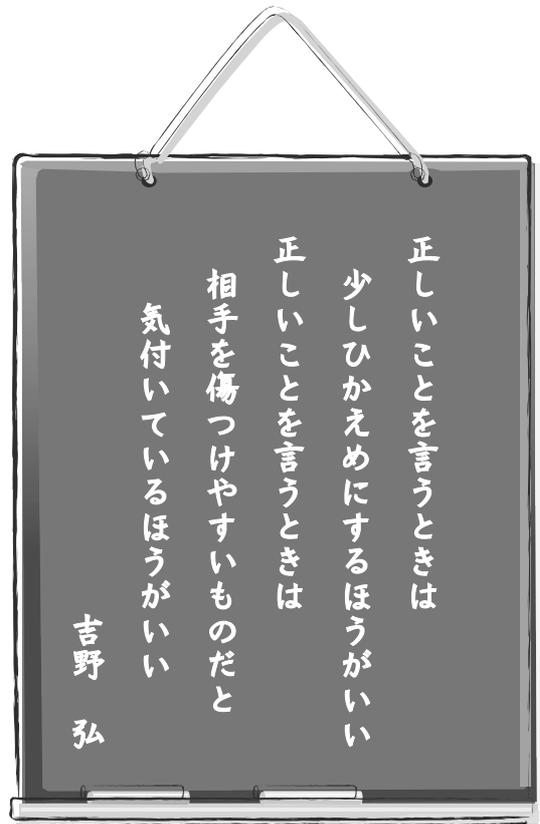
おだ あきひろ 氏
織田 顕祐 氏

6

今という時代／出会いの窓

7

京都教区教化レポート（青少幼年研修小委員会）



京都教区の動き

「誕生児初参り式」サポート

一月一日(日)、近江第七組遠慶寺にて「誕生児初参り式」サポートが行われ、二十名(大人十五名、子ども五名)の方が参加されました。

遠慶寺で毎年恒例になっている修正会と初



参り式を一緒にされたことで、ご門徒の皆さんも肩に力が入らずホンワカした雰囲気の様になりました。

お寺の近隣のご門徒さん同士、子どもや孫の顔もよく知られていて、無理なく続けていけるように感じました。

(青少年研修小委員会 藤澤 順子)

第十四期伝道研修会

一月十六日(月)～十七日(火)、教区会館において第十四期第四回伝道研修会が開催された。

講師は金沢教区常讚寺住職の藤場俊基先生。「現代における伝道のあり方」をテーマに講義をいただいた。念仏は自分の主義主張でも、

人間の煩惱の結論としてあるのでもない。法蔵菩薩の願心からしか始まらない。この事を第一願から第十一願に依りながら話され、本当に伝わって欲しいこと、それは称名念仏であるとご教示いただいた。攻究や法話実習も四回目ともなると場の信頼が構築され、自主的に発言される方が多く活発な意見が交わされた。

(育成員等研修小委員会 長嶋 明子)

福島の声を聞く研修会

「福島の声を聞く研修会」を、一月二十五日(水)島根県雲南市のチェリヴァホールに於いて開催致しました。講師には佐々木道範氏(仙台教区中組真行寺住職・同朋幼稚園理事長)をお迎えし、震災から六年が経とうとしている福島では、諦めている人・頑張っている人・死んでしまう人・子どもを守れなかったと自らを責めている親がいる現状を伝えられました。また、ご自身の活動は生きている内に間に合わないのはわかっているが、未来のいのちが少しでもいきいきと生きられるように、そして福島と同じような事が二度と起こってほしくない、福島を無駄にしてほしくないと言われました。

最後に前々日の記録的な大雪の中参加下さった六十名の皆さんと意見交換されました。

当会では今年も三月二十五日～四月一日の間、大谷大学湖西キャンパスで保養事業実施予定です。

(福島の子どもたち一時避難受け入れの会 川原 慎二)

靖国問題学習会公開講演会

一月二十六日、教区会館において靖国問題学習会公開講演会が開催されました。講師に日野範之先生をお迎えし、宗教者(教団)の戦争責任をテーマにご講義いただきました。先生ご自身の戦争中の体験を語られた後、宗門をあげて戦争協力してしまった過程を当時の資料を実際に見せていただきましたからお話いただきました。

名だたる教学者たちが、親鸞聖人の仰せになきことを仰せとし、当時の社会思想に迎合していた事実を目の当たりにし、私の罪福心をむき出しにされ、お前はどこに立って聞いているのか問いかけられているような気がしました。

過去の過ちを背景も知らずに現在から批判することは簡単だと思います。現在の私が過去からどのように学び、どのように教えに聞いていくのか大きな課題をいただきました。

(近江第九組 願念寺 長 紀子)

——特集「同和協議会現地学習会」——

きょうく
恐懼に堪えざることに抗して

～天皇制による洞部落強制移転～

教区同和協議会運営委員

村上 宗博

二〇一六年十二月八日(木) 晴れ、午後一時、近鉄畝傍御陵前駅に十六人が集まった。

駅から徒歩十五分、一行が向かったのは、おおくぼまちづくり館(三名が合流)。入館するとすぐに、移転前の洞村と神武天皇陵の様子を伝える模型が、一行を迎えてくれた。会議室では、洞村ボランティアガイド吉住光洋さんが待っていてくださった。

ビデオを使いながら、洞村、大久保町を通して主な産業であった、「下駄表づくり」と「靴づくり」を紹介、さらに、洞村の移転についてお話しくださった。

神武天皇は、『古事記』『日本書紀』によって初代天皇とされたが、実在の人物ではない。江戸時代、神武天皇陵の場所が問題となり、結果一八六三年(文久三)現在の位置に造られ拡張され、今日の姿になった。

一九一二年明治天皇が亡くなり、翌年、大正天皇が即位。さらに一九一五年(大正四)大正天皇の「神武陵行幸」が予定され、洞部落全村移転計画が持ち上がった。「特に神武御陵兆域

を眼下に見るの地位にありて恐懼に堪えざるこ
と等の諸理由に基けり」(高市郡役所「洞新部
落敷地に関する書類」大正十二年)、神武天皇
陵を見下ろす場所に、被差別部落があることが
許せないとの理由で。吉住さんは、特に次の文
書を紹介、一部を朗読なされた。

「驚くべし。神地、聖蹟、この畝傍山は無上
極点の汚辱を受けている。知るや、知らずや、
政府も、人民も、平気な顔で澄ましている。事
実はこうである。畝傍山の一角、しかも神武御
陵に面した山脚に、御陵に面して、新平民の墓
がある。それが古いのではない、今現に埋葬し
つつある。しかもそれが土葬で、新平民の醜

骸はそのままこの神山に埋められ、霊山の中に
爛れ、腐れ、そして千万世に白骨を残すのであ
る。どだい、神山と、御陵の間に、新平民の一
団を住まわせるのが、不都合この上なきに、こ
れを許して、神山の一部を埋葬地となすは、こ
とここに至りては言語道断なり。」(『皇陵史稿』
一九一三年 後藤秀穂著)

一九一七年(大正六)、宮内省の次官が洞村

現地を視察に訪れ、移転が具体化、寺院などを
除き、家屋の移転は一九二〇年(大正九)にほ
ぼ終了した。

当初、洞村の人たちは、元本村の山本への移
転を希望したが容れられず、最終的に大久保と
四条にまたがる湿地に移転させられた。もちろ
ん両大字からは猛烈な反対が起きたが、天皇の
威光により、受け入れざるをえなかったのでは
ある。ただ、墓地の移転だけは断固拒否、墓地は、
大字山本で決着した。

当時を知る洞村の方の証言が残っている。墓
地は、墓石のあるところだけでなく、埋葬した
可能性のあるところすべて、警官立会いの下、
徹底的に掘り起こされた。中には、まだお骨に
なっていないご遺体もあり、その悲しみは堪え
がたいものであったという。

講義のあと、実際に洞村跡地を訪れた。神武
天皇陵を通り、昨夜の
雨で少しぬかるんだ山
道を登って行った。こ
のとき感じた深い悲し
みは、一行の同感する
ところであつたらう。



雑宝



出雲組 正藏坊 副住職

多賀 静秀

「仏に念じられ」

日記を付け始めて十二年目になる。学生時代は全く書いた事はなかったが、大谷派教師資格を取得し実家の寺に帰った翌年、平成十六年の元日からだ。

この年の正月、祖父（先代住職）が脳梗塞を発症し、十二月十日に還浄げんじょうした。祖父の容態が悪くなったから日記を書き始めた訳ではなく、それ以前から、平成十五年を漫然と過ごしていた事にちよつとした危機感というか、何をすべきかを記しておいた方が良いかな、という軽い思い付きで始めた。

買ったのは十年日記。一日に記せる部分はほんの僅かな行なので、ほぼその日にあった事、した事と天気などでいっばいになる。

その日記が二冊目に入って早二年。こんなに続くとは思っていなかった。

祖父は、曾祖父が五十歳で還浄したため、

十八歳で住職を継承したという。戦争をはさんで五十年住職を勤めた。十年日記で言えば五冊分だが、祖父自身はさして書き物は残していない。法要をするす手帳の余白に僅かに当時の時事が記されているのみである。現在の住職である父も、住職継承から二十六年になるが、祖父に倣う様に、孫の誕生や親戚の訃報を記すに留めている。

そんな父はおばあちゃん子だったそうだ。母親が幼稚園に勤めていたため、祖母のお念仏を聞いて育つたらしい。私にとって曾祖母に当たるのだが、曾祖母は私が生まれた翌年還浄した。八十五歳。奇しくも祖父と同じ年齢。その曾祖母の辞世の句がある。

「現世（うつしよ）の 成すべきことの
成し終えて 心静かに 来迎を待つ」

祖父の辞世の句は、

「念仏に 生かされ過ぎし 五十年
今 聖人に 逢う喜びを」

父によれば、いざ最期を迎えるとなれば、祖父も曾祖母も本当に心穏やかでいたかはわからないとのこと。ただ、祖父に関して言えば、平成十五年の八月に、住職が導師を、祖父と私が脇導師、祖母が役僧を務めた親子三代三仏の葬儀が出来た事は、後継者を確認し、安心して貰える事が出来たかなと手前味噌ながら思っている。

真宗の教えに触れるまで、お念仏は「仏を念じる」ことだと思っていた。今では「仏に念じられている」ことに気付き、その有難さ、勿体無さに思わず漏れる言葉が「南無阿弥陀仏」だと、この道の先輩方にご指導頂く所である。

そして「願われて生まれて願いながら死んでいく」こと。この十三年間に百八十人を越える方々のお別れがあった。その方々全てが念じ念じられこの私とご縁が繋がってきた。

最近はお遺影やお遺族の皆様の似顔絵を描かせて頂いている。百枚綴りのスケッチブックは三冊目を書き終えた。一期一会。それらの事もまた日記に少しづつ刻んで行きたい。



これまで、仏弟子たちの「仏とは何か?」「法とは何か?」「仏が歩まれた道とは何か?」「法」という問いが、超歴史的な世界を開いてきたことを述べてきました。この一連の流れが大乗仏教であり、それを明らかにするものを「釈尊を説いた経」と呼んで、大乘経典がそれに当たると言いたいのです。超歴史的な世界です。から、「釈尊が説いた経(結集をきつかけにまとめられ伝承された経(阿含経))」よりも古くからある事になります。『正信偈』の龍樹大士の段落に「大乘無上の法」とあるのはこうした立場を表しているのです。

さて、そうした大乘経典は歴史の上では、紀元後まもなくの頃から具体的には文字という手段を通して姿を現していったものと考えられます。それからおよそ千年もの間にわたって、おびただしい数の大乘経典が生まれました。今ここでそれらを一つひとつ具体的に紹介する事はできませんので、親鸞聖人の教えを頂くために欠く事のできないものに限って紹介していききたいと思います。親鸞聖人は「南無阿弥陀仏」という本願の名号の意味を明らかにするために、『教行信証』を著されました。それは、通常「浄土三部経」と呼ばれる大乘経典を基盤にしながら、他の多くの大乘経典や大菩薩たちの論書、祖師の文章などの引用によって成り立っている事は良く知られています。ここでは、ご引用になつた大乘経典のみではなく、宗祖の教えを理解するために不可欠な経典をも含めて紹介していききたいと思います。何故なら前回触れたように、それぞれの大乘経典は常に課題との対話の中から成り立っていったと考えられるからです。

現代では、これら大乘経典の内容を考察する場合には、便宜的に龍樹(二〜三世紀の人)と世親(二天親、五世紀後半の人)を目安として、三つに区分するのが一般的です。龍樹

の時にはすでに成立していた経典を初期大乘経典、龍樹と世親の間に成立したと思われる経典を中期大乘経典、世親以後の成立と考えられる経典を後期大乘経典と呼びます。このうち、親鸞聖人と特に関係が深いのは、初期大乘経典と中期大乘経典です。そこで、まず龍樹の拠りどころとなった初期大乘経典の内容を紹介するにあたって、まず龍樹の『大智度論』に注目してみたいと思います。

『大智度論』は、『般若経』に対する龍樹の注釈です。百巻もある膨大なものですが、その中に幾つかの初期大乘経典が頻りに引用されています。具体的には『法華経』『維摩経』『華嚴経』の入法界品(智度論の中では不可思議解脱経と呼ばれている)と十地品などです。『無量寿経』は名称こそ登場しませんが、阿弥陀仏と法蔵比丘の関係が説かれています。これらはいずれも後の時代に極めて大きな影響を与えた重要な経典ですから、主要な初期大乘経典であると言えます。その中でも相互の関係から見て、特に成立の早いものは、『般若経』と『無量寿経』だと思われます。それ故、この二つの経を始めとして、「仏とは何か?」「法とは何か?」「仏が歩まれた道とは何か?」という三つの視点を中心にこれらの経典の内容を紹介していききたいと思います。

今という時代

最近ふとある記事に目が止まった。カナダの先住民デネ族が、自分たちの土地で採掘していた石が、実は広島、長崎の原爆の材料となっていたことを知り、98年広島に訪れ謝罪したというものだ。デネ族は当時採掘作業に従事した影響で自ら被ばくし、多くの命を失った被害者でもある。

昨年オバマ大統領が広島を訪問したことが話題となった。その際、広島訪問は謝罪の意味合いではないことが、米国側から強調された。その背景には、原爆投下は早期戦争終結のために正当であったという考えが米国民の間で根強いことがあるという。

また米爆撃機B29「エノラ・ゲイ」の搭乗員への過去のインタビューでも、「気の毒 sorry」とは思うが「謝罪 apology」の気持ちはないという記事もあった。

もちろん今ここで、このことの正否やそもそも謝罪をすべきかどうか、反対に日本側の謝罪はどうなのかも含めて、それを論じようというのではない。このような記事に目が止まったのは、私の日常でも「謝る」が大きな関心事になっていくからだ。

急に小さな話になるが、洗濯物をたたむとき、二人いればそこにはそれぞれの正しいたみ方がある。きちんと折りたたむ順番を決めて完成

の形も揃えるのが正しいと思っている人と、細かいことは気にせず早くたたむことが正しいとする人がいるとする。そのどちらが正しいのか。これはどちらも正しいのだ。それぞれが自分の価値観をもち、それぞれの「正しい」があるのだ。

このことは、お互いの「正しい」がどうしようもなくぶつかり続けることによって、うつすら気付いてきたことだ。そしてそのことに気付いた次のアクションとして課題となるのが関係修復のための「謝る」なのである。自分の価値観ではこちらの方が正しいと思ったが、相手の価値観では別の方法が正しかった。確かにそちらも正しいと認めて謝る、というアクションだ。謝ると不思議と相手はそれ以上「正しい」を主張しない。そして不思議とこちらの気持ちも楽になるときがある。だから謝ることも前より増えた。だがどうもおかしい。

辞書によると、「謝る」とは「誤る」が転じたもので、『誤りをしたことを自認する。悪かったと思つてわびるという意味』とある。
 (『岩波国語辞典』)

謝ることが自己の「誤り」を認めることだとすると、自分の「正しい」を捨てないと謝ることとは成立しないということか。しかし私の「謝る」は自分の「正しい」を保持したままだ。

それならば、謝っているのではなく見せかけなのか？それとも、そんな自分の心情は問題にする必要はなく、相手が許せばそれでいいのか？自分の「正しい」をたよりに生きる日常において、「謝る」は頭を悩ませつつ、しかし他者と関係していくうえでの重要なテーマであるようだ。

(編集委員 岡本 大志)

出 会 い の 窓



蜜ろうクレヨンを使った工作です。紙なのにスタンドグラスのような雰囲気になります。お寺の子ども会や、地域の幼児・小学生のイベントで行いました。

☆用意するもの☆
 蜜ろうクレヨン、黒マジック、コピー用紙、アイロン、クッキングシート

- ①コピー用紙に、黒マジックで下絵を描く。
- ②塗り絵のように、蜜ろうクレヨンでぬる。
- ③クッキングシートの間にはさみ、アイロンで熱を加える。
- ④出来上がり。

物語を描けば、光る紙芝居もできます。筒状にして、中にロウソクを入れるといい雰囲気になります。紙を綿製バックに変えれば、オリジナルの手さげバックも作れます。(編集委員・前田賢龍)

「簡単スタンドグラス」

京都教区教化レポート

【青少年研修小委員会】

青少年研修小委員会では、主に三つの事業と御遠忌記念事業を行っております。

- ・ 児童大会
 - ・ お寺の子ども会サポート研修会(年三回)
 - ・ お寺の子ども会サポート(第三期)
- 御遠忌記念事業

・ 「誕生児初参り式」サポート事業

児童大会は毎年夏に行っており、本年度は昨夏第五十九回目を湖南地区にあります「こんぜの里」で行いました。

また、小委員会ではお寺を子どもの声で元気にしたと、お寺の子ども会を推進しております。その取り組みとして、子ども会サポートと称して子ども会の立ち上げから始まり、一期二年子ども会のサポートを行っております。対象は三カ寺と少ないですが確実な子ども会の立ち上げを目的としておりますので、一番良い方法と考えております。

教区宗祖御遠忌記念事業の三本柱の一つ青少年を対象とした記念事業の担当として、「初参り式」を実施いたしております。本年度は申し込みのあった二カ寺をサポートしております。児童教化の歩みは息の長い歩みです。初参りを経験した親子さんが、次はお寺の子ども会に足を運び、願わくは次の仏青へと関係をつないでほしいものです。

(主査 三品 正親)

事務連絡

《住職任命》

〔届出順〕

二〇一七年一月二十八日付
 近江第十一組 願通寺 種村 俊道
 山城第一組 東光寺 藤澤 彰
 近江第八組 西誘寺 小菅 光明
 〔敬称略〕

《敬弔》

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

近江第十一組 蓮生寺住職 禿 正孝
 二〇一七年一月七日 七十四歳
 〔敬称略〕

《「福島の子どもたち

一時避難受け入れの会」

「支援・ご協力のお願い」

二〇一一年三月に東日本大震災・福島第一原発事故が発生してから、六年が経ちました。

京都教区では、三月二十五日(土)〜四月一日(土)まで「福島の子どもたち一時避難受け入れ(保養)」事業を行います。

今回で六回目となる当事業ですが、福島か

らの子どもたちと保護者の日常のストレスからの解放、そして私たちが忘れてはならない事を学ぶ場として、この保養事業があります。

つきましては、皆様からのご支援・ご協力をお願いいたします。

〔銀行名〕ゆうちょ銀行

〔預金種目〕当座預金

〔口座名〕真宗大谷派京都教区福島の子どもたち一時避難受け入れの会

〔口座預金番号〕

009407-273385

※ボランティアスタッフの募集を行っております。締め切りは三月十一日(土)です。詳細につきましては『教区だより』に同封のチラシをご覧ください。
 ※保養の受け入れ寺院の募集を行っております。締め切りは三月十三日(月)です。こちらも詳細につきましては『教区だより』同封のチラシをご覧ください。

《お詫び》

『教区だより』二月号、三頁特集記事「報恩講く美山に伝わる袴姿」、六頁「出合いの窓」につきまして、写真の画像処理を誤ったため、見づらい状態で発行してしまいました。

関係各位に謹んでお詫び申し上げます。

■ 京都教区教化テーマ ■

今いのちがあなたを生きている
 命に感謝 いのちの声 感謝すかいのちのねぐち

◆ 教区事業予定

3月 1日 (水)	10:00 ~	教区門徒戸数調査委員会	会場◇しんらん交流館
3月 6日 (月)	13:30 ~ 16:30	『教区だより』公開講演会	会場◇教区会館2F大講堂
3月 7日 (火)	13:30 ~ 17:00	出版小委員会	会場◇教区会館3F会議室
3月 8日 (水)	18:00 ~ 20:30	お寺の子ども会サポート研修会	会場◇教区会館2F大講堂
3月11日 (土)	14:00 ~ 21:00	拾学舎(教学・声明作法研修会)	会場◇教区会館2F大講堂
3月13日 (月)	13:30 ~ 16:45	同和協議会学習会	会場◇教区会館2F大講堂
3月23日 (木)	13:30 ~	第14期伝道研修会	会場◇教区会館2F大講堂
~24日 (金)	~16:00	〃	会場◇ 〃
3月29日 (水)	13:00 ~ 18:00	得度学習会	会場◇教区会館2F大講堂
~30日 (木)	9:00 ~ 15:00	〃	会場◇ 〃

◆ 地区・団体事業予定

3月 2日 (木)	18:30 ~ 20:30	仏教青年会	会場◇教区会館3F会議室
3月 8日 (水)	18:00 ~ 20:00	声明会	会場◇教区会館3F研修室
3月10日 (金)	13:30 ~ 16:00	教区合唱団	会場◇教区会館2F大講堂
	18:00 ~ 20:30	仏青公開講座	会場◇教区会館2F大講堂
3月14日 (火)	9:00 ~ 17:00	ときわカフェ(坊守会)	会場◇教区会館2F大講堂
	15:30 ~ 18:00	大谷保育協会	会場◇教区会館3F研修室
3月15日 (水)	9:00 ~ 16:00	坊守会真宗基礎講座	会場◇教区会館2F大講堂
3月15日 (水)	14:00 ~	伝研自主学習会	会場◇教区会館3F会議室
~16日 (木)	~10:00	〃	会場◇ 〃
3月22日 (水)	18:00 ~ 20:00	声明会	会場◇教区会館3F研修室
3月27日 (月)	9:30 ~ 15:30	春の子ども本山参り	会場◇真宗本廟

「教区だより」第340号

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

発行日 2017(平成29)年3月1日
 発行人 錦 秀見(真宗大谷派京都教務所長)
 発行所 真宗大谷派京都教務所
 〒600-8164
 京都市下京区花屋町通烏丸西入
 Tel: 075(351)5260
 Fax: 075(351)5256
 メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp
 ホームページ: http://www.k-kyoku.net/

印刷所 (有) 寶印刷工業所

the editor's note

編集後記

蓮如上人は「仏法の事は、いそげ、いそげ」と言われたが、今の世は、つまらぬ事で急かされる。賞味期限に踊らされ大量の食品を廃棄したかと思えば、期間限定に踊らされ無くて大して困らないモノが溢れる▼先日、携帯電話に不具合があり、新しくした。徐々におかしくなっていたのに、まだ使えているからと、先伸ばしし早めに手を打たなかったのが間違いの元。今ならこれがオススメと、色々買った。またモノが増えた。人生五十年、先は短い。大切なもの、遺すべきものをしっかり考えねばならぬ年だというのに…

(編集委員・横田 典)